

RISKBOND

新たなリスクとリスク プロファイルの変 更にすばやく対応

RiskBond は、エンド ツー エンドのリスク プロセスにおいて、コアのリスクマネジメント活動を、統合された単一のプラットフォームに一元化及び簡略化します。RiskBond は、スプレッドシートや異なるソリューショングループと比べて、リスクを組織の戦略的目標のコンテキストに配置します。RiskBond は、誰もが最重要事に専念できるようにし、リスクの重複を最小限に抑えて、一括で強力なレポートを作成します。

また、本ソフトウェアは、評価プロセスにリスク指標をシームレスに組み込むことで、主観性を低減します。散らばっている諸チームがリスクを特定し、リモートワークショップ経由でリスク評価を集約することができるようにします。この機能は、充実した使いやすいユーザー インターフェイスにより、第一線にいるチームによるエンゲージメントを最大化します。つまり、リスクマネジメントがプロセス管理に費やす時間が短縮され、変化をもたらす時間が増えるということです。

RiskBond が選ばれる理由

- 1 リスクベースでの管理職による意思決定を、事後対応から予測行動へ改善します。
- 2 急速に展開するリスクや新たなリスクをすばやく特定し対処します。
- 3 影響度をより良く理解し対応するために、リスクの集約とレポート作成が簡単に行えます。
- 4 組織の縦割りを解消し、強力な“リスクカルチャー”を促進します。
- 5 評価とレポート作成においてデータ主導型のリスク指標を使って、主観性を低減します。
- 6 ガバナンスチームと保証チームの連携を単一のプラットフォームで成し遂げます。

特徴的な機能

「HighBond を使用することで、当社ではリスクとコンプライアンスの複合的な保証の客観的状況を簡単に把握することができます。自社のパフォーマンスと、直面している障害を、すべて自社の取引データから完全に把握することができます。」

- Rod Verhulp, Equinix 社財務部長

リスクマネジメント チームが確認できる、RiskBond による結果:

402%

投資収益率

160
万ドル

正味現在価値

50%

低減される回避可能なリスク

リスクワークショップ:検出と評価

- 1 リモートおよびライブのリスクワークショップをプラットフォームで直接、スケジュールリングして実施します。
- 2 監視しているリスク指標に基づいて、リスク評価を自動化します。
- 3 S&P500 10Kレポートで検証された一般的な主要リスクに戦略的目標をマッピングすることによるベストプラクティスを使って、リスクユニバースをモデリングします。
- 4 リスクの選好度および影響度に基づいてリスクに優先順位を付けます。
- 5 戦略的目標をマッピングすることで、一貫性を持ってリスクを特定します。
- 6 管理されているリスクライブラリを使って、リスクを特定しカタログ化します。

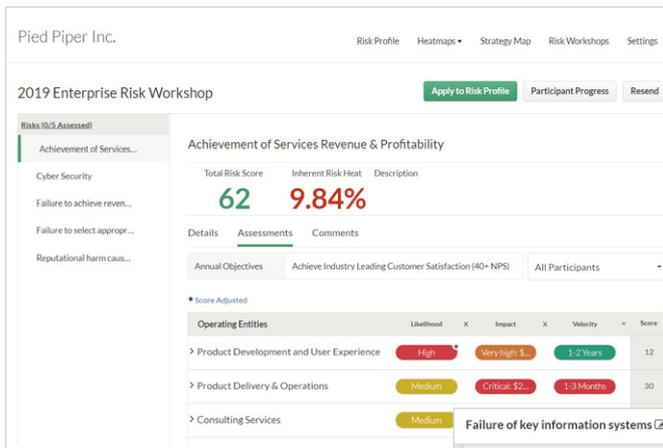


図 1: リスク評価投票を実施
ワークショップ

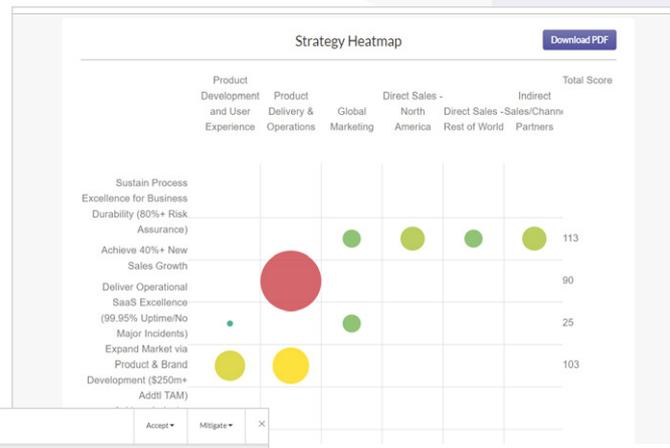


図 2: 戦略的意思決定がリスクヒートマップにより改善

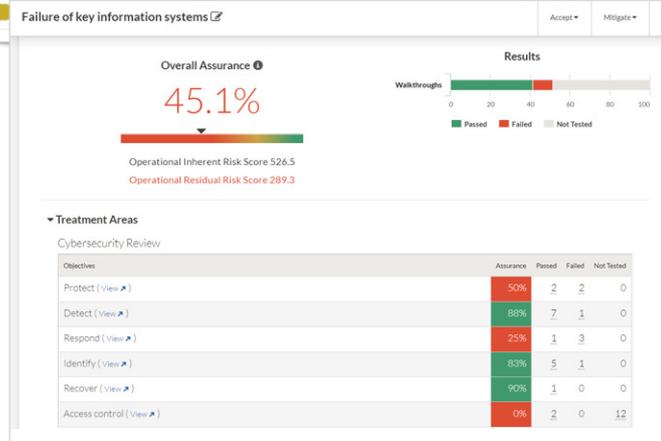


図 3: 統合された保証の提供

リアルタイムのリスクレポート作成

- 1 KPIとKRIをリアルタイムで監視します。
- 2 時間に連れて変化するリスク傾向を視覚化します。
- 3 瞬時にリーダーシップレベルのリアルタイムリスクヒートマップを生成します。
- 4 役員会レベルのリスク選好に対しリスクポジションが即座にわかります。
- 5 リスクメトリクスやリスク指標が定義されているしきい値を超えたときに、自動通知が送信されます。

統合された保証

- 1 重複や複製を削減するように、社内外の保証提供者の作業を調整します。
- 2 3つのディフェンスラインにおいて戦略リスクを保証フレームワークにリンクします。
- 3 リアルタイムの組織の保証マップを、関心分野を強調表示して自動的に生成します。
- 4 リスクプロファイルに変更が発生した場合の通知を自動化します。
- 5 標準化された評価方法論を使って、組織における一貫性を向上させます。